



### ～すべての子どもに、どのクラスでも～

仲間とつながり合い、支え合う関係づくりを進め、安心感の中で、どの子にとってもやさしくて、わかる、できる学習を目指す。それが、吉田西小の特別支援教育です。

吉田西小の子どもたちは、素直で、明るく、学習にも運動にも元気に取り組み、一人一人がその子なりのよさや長所をもっています。一方で、読むのが苦手、音読が苦手、字が上手に書けない、漢字を覚えるのが苦手、話すのが苦手、計算が苦手、歌や楽器が苦手、絵や裁縫が苦手、走るのが遅い、跳び箱が苦手、水泳が苦手など、すべてと言ってもよいぐらいの子どもたちが、学習面で何らかの苦手意識や困り感をもっています。

さらに、人と上手にかかわれない、集団で規律を守って行動するのが苦手、集中が長く保たない、落ち着きがなくおしゃべりや動きが止められない、感情のコントロールがうまくできない、場の空気や人の気持ちが上手に読めない、判断や我慢が苦手で、やりたいこと、言いたいことは、すぐに言動に移してしまうなど、行動面が未熟で、うまくいかない子もいます。また、心理面で何らかの不安をもっていたり、経験不足などから年齢相応にできなければならないことが身に付いていなかったりする子もいます。こうした困難は、学習はもちろんのこと、集団生活や人間関係づくりの障壁にもなります。

障がいの有無に関わらず、何らかの困難や困り感を抱えながらがんばっているすべての子どもたちに、よりよい援助を提供できるように、本校の職員は努めています。具体的には、主に次のような取組を行っています。

- 「児童理解→援助方針→個別援助や集団活動の実践→評価・方針の見直し」といった計画・実践・評価・改善のサイクルで、効果を確認しながら、的確な援助を展開する。児童理解のためには、信頼関係にもとづきかわりや心理検査など、さまざまな方法をつないで用いる。援助方針は、個々の子どものうまくいっているところを活かすようにする。
- 児童理解や援助方針は、全職員で共有する。困難の度合いによっては、担任同士がチームを組んだり、全職員がチームとなったり、組織的に対応する。必要に応じて、市学校

教育サポートセンターや家庭とも連携・協力する。

- だれにでもやさしく、わかりやすいユニバーサルデザインの授業のスタンダード化を推進する。一人一人のよさを認め、困難な部分に配慮し、特性に応じた援助に努め、達成感や充実感が味わえるようにして、自信と意欲がもてるようにする。
- まなびタイムなど授業の時間以外でも、読み・書きの力を補い、強化し、基礎的・基本的な力の定着や学力の向上につなげる。
- 学級や他の学年の子どもたちとの人間関係づくりと社会性（規範意識、基本的な生活習慣、思いやり・支え合い、協力・協調、人とかかわるスキル、根気、判断力・実践力など）を育むため、さまざまな異学年交流活動、体験活動、集団活動（縦割り班活動、運動会、蔵王祭、児童集会など）を取り入れる。
- 道徳や学級活動、日常的な指導で、きまりの意義や遵守の必要性、生活スキル、人とかかわるスキルなどを教え、仲間づくりも進める。
- 教育相談・学習相談期間や、日常的なかかわりでも、心に寄り添って情緒面の安定を図り、学習面の遅れを援助したり、補ったりする。
- 幼稚園・保育園、中学校との連携を強化し、子どもの特性や効果的な支援策など、情報・援助方針を引き継ぐ。

学校では、保護者やご家族の皆さんも、学校で子どもを支え、育むための重要な援助者と考えています。問題状況や困難の改善、効果的な援助・教育のためには、学校と家庭の協力が不可欠です。お子さんの問題や気になること、保護者の方の困り事・子育ての悩み・援助方針の希望など、何でもお気軽に各学級担任にご相談ください。放課後に時間を設定しての面談も随時可能です。また、学校には、以下のような専門スタッフもおります。直接ご連絡をいただくことも可能です。

- 特別支援教育コーディネーター（発達、学習・行動面の困難などの相談）：藤田 裕子
- 市学校教育サポートセンター・スクールカウンセラーコーディネーター（心の問題、子育ての悩み、外部の相談機関等の利用）：鈴木 薫
- いじめ・不適切な指導等担当：教頭（橋本俊明）、辻 泰臣
- ※学校以外では、「下野市学校教育サポートセンター」0285-52-1140（直通）へ